

「一度夢見てしまつて、欲しいと思つたんだつたら、本当にそれにならないといけない。努力したけど届かなかった。仕方なかった、というのを俺は認められない」

出典：『光待つ場所へ』 辻村深月著 講談社

選・鳥海葉

一度は自分が素晴らしくあるような気がしたことがあるだろう。例えば一話目の主人公、清水あやめもそうだ。彼女が初めて圧倒的敗北を感じたのは同じ大学の田辺颯也。しかし一方で、たとえ自分が相手より優れているというよりは相手が劣っているという事実を知っていてもそう思うことがある。私はその最たる例だ。そんな傲慢な私が味わった圧倒的な敗北は、昨

春の受験だった。勘違いから天狗になつて夢見た大学には合格はおろか受験すらできなかった。

田辺は彼の持論として言つた。けれどきつと、清水に対して負けたくなければ努力をしろと伝えたかったのだ。田辺も一方で、清水に対してわずかに彼女と同じような気持ちを抱いていたから。

